

リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用（2 / 2）

2-3.整理・分析・まとめ

情報収集したキーワードなどをジャムボードの自分のページに整理したりキーワード同士の関係性を構造化したりする。この際に、クラウドの共同編集を活用しているため、互いのまとめを参考にし合うことができる（図4）。

2-4.表現

自分の考えがまとまった時点で、確認したいことについて級友や教師とディスカッションする。ディスカッションを通して、自分の考えに自信を持ったり、不足や勘違いに気がついたりする（図5）。

2-5.再構築・振り返り・改善

終盤には、スプレッドシートに学習課題に対する自分の理解を200文字程度で再構築する。このシートも他者参照できる環境にある。また、自分の「学び方」について自己評価して、より良い学びにむけた自己調整を行う。

3. 成果

- ・ 学習の方法や手段を自分で決められる良さを実感した（78.3%）。
- ・ 情報活用能力の向上を実感した（図6）（79.2%）。
- ・ 自分に合った学び（教科書、動画、協働など）を見つけた（51.1%）。

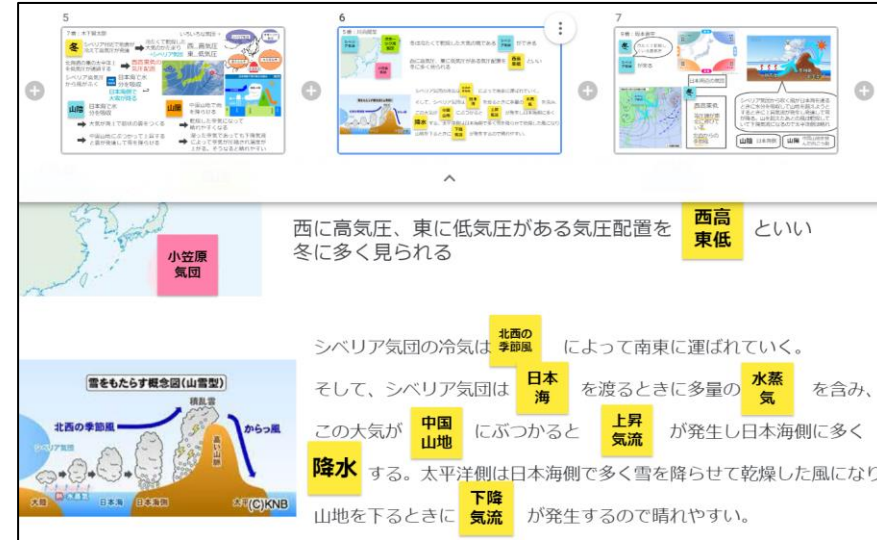


図4 ジャムボード（白紙共有・他者参照）

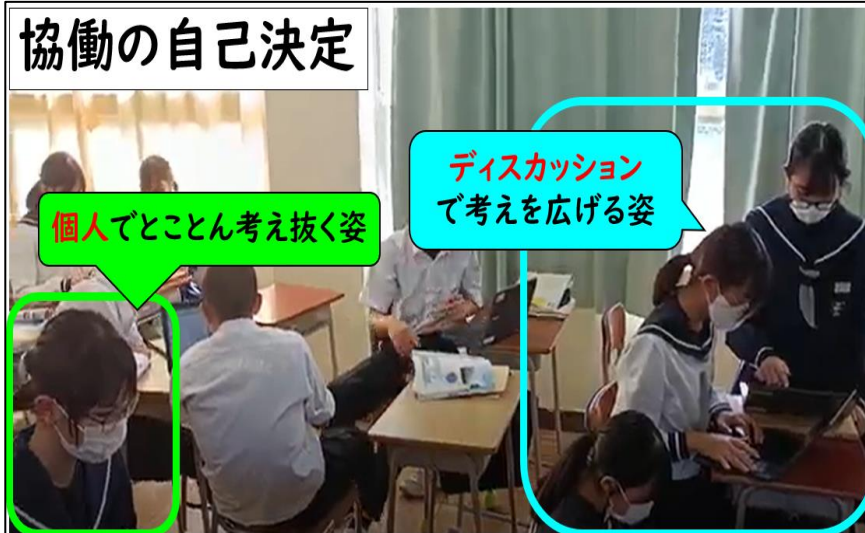


図5 ディスカッション場面（協働の自己決定）

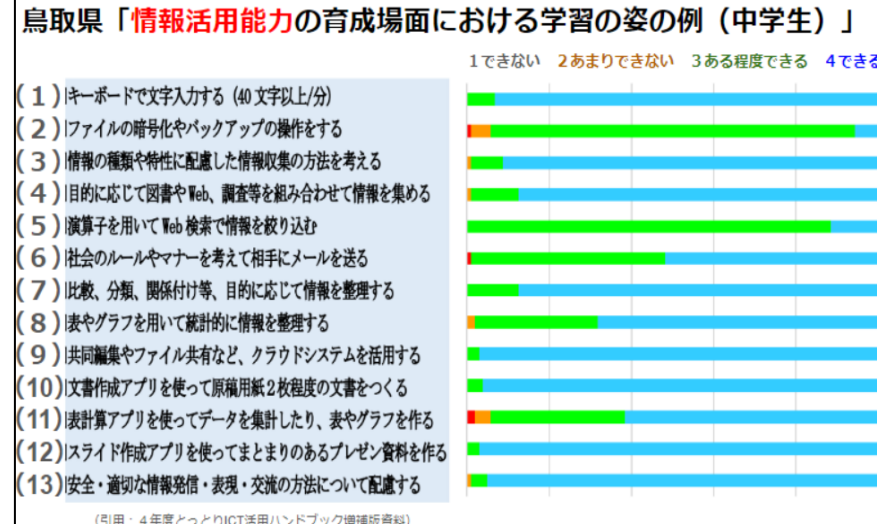


図6 生徒アンケート結果（情報活用能力）